

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	姫桃合同会議、カンファレンスや朝礼を通して、法人の理念やGH運営の基本方針を確認し、サービス提供を実施し実践につなげている。	法人の目指す理念のほかにグループホームとして目標を毎年みんなで話して決めて掲示してあり、2ユニット合同会議の時に目標に沿った支援ができていないか検討する時間がある。年度末に個人目標と合わせて評価している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	コロナの影響で自粛が定着したが、今後は活動を増やしていく。運営推進会議の資料と共に写真を入れたグループホームでの生活の様子をご家族様、運営推進会議のメンバーへお配りしている。	コロナの影響で地域交流は減少したが、今後はコロナ前以上の交流にしていきたい意向である。運営推進会議も自粛していたがグループの現状についてお知らせしていた。	情報発信の方法を工夫して地域や、家族などへの伝達を密にして交流を深めていくことを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の資料配布とグループホームの運営に関するアンケートのお願いをお送りし反映している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナとインフルエンザが続いていて、運営推進会議の開催に至らなかった。運営実績の報告を行い、その際にアンケートをお願いし運営に反映している。	コロナ、インフルエンザへの警戒から、定期の開催はできていなかった。推進会議メンバーや家族にはグループホームの現状についてお知らせすることは郵送でやっていた。	定期的に会議を開けるよう体制づくりをして、広く意見を聞けるよう努力されることを希望します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	昨年4月担当者の異動があったことから、郵送に頼らず、窓口に行きコミュニケーションを図っている。また、地域包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し、可能な限り対応している。	地域包括支援センターとの交流が主である。介護保険の更新事務は市の窓口に行くので、必要なことはそこで話している。利用者の紹介や問い合わせなどが主になっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2か月に一度、法人として全体研修があり、職員は身体拘束についての理解ができており、身体拘束をしないケアを行っている。	本部の身体拘束適正化委員会への管理者参加、全体の研修会など実施しており、わかりやすいマニュアルを作って職員研修を行っている。研修会の実施記録を確認した。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2か月に一度、法人として全体研修があり、職員の理解ができており、常日頃の対応についても注意を払っている。		

グループホーム桃源郷

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	この地域は社協が窓口になっており、独居の老年寄りの将来財産上の問題が浮上することが、予想される場合には相談する体制がある。また本人が希望した場合などは司法書士などを紹介している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得を得ている。入所時・解約時・改定時などには十分な説明を行っている。特に金銭的なことについては(介護保険料金改訂など)、トラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に反映させている。常日頃意見を言えるように、玄関に意見箱を設置したり、常時進言できる体制を作っている。また、今後は家族参加型で運営推進会議・納涼祭・クリスマス会を開催して意見要望を聞きながら運営に反映させる。	訪問してくれる家族や、親族からは直接意見聴取ができていないが、設置している意見箱への投稿はない。必要事項についてはそれぞれ連絡をとって話を聞いている。聴取した情報は職員で共有し、支援計画に活かしてしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の合同ミ-ティング・各グループホームのミ-ティングにおいて、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。	月1回の会議では職員の意見を聞く仕組みがあるが、常日頃職員からの意見要望、提言は多いので管理者が随時対応していることが多い。職員の目標の管理などで直接対話の機会がある。年2回は職員との個人面談を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の評価表を実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応じている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で2か月に1回の研修会を設けている。また介護技術向上のための研修会もある。昨年は介護福祉士1名が誕生している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	行政主催の集まりなどに参加したり、職種に応じた研修会や勉強会に参加して、サービスの質向上を図っている。グループ内の祢津診療所及び歯科、訪問看護、訪問リハ、看護小規模多機能とのネットワークを通じ資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族・ご本人から可能な限り、今までの生活や、育ってきた環境などについてお聞きし、要望に沿うよう介護計画やケアに活かしている。施設で楽しく、穏やかに生活できるように交流機会を確保している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	関係づくりに努めている。 入所する前にご家族からの要望などお聞きしている。また、入所後も定期的に連絡を取り、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時にご本人及びご家族からの要望などお聞きし、介護計画の作成やサービス提供に努めている。また、他の方法もあることなど提案している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者本人のADLに応じて、お茶配り・配膳・食器拭き・洗濯物たたみなど一緒に行っている。お昼寝ができない利用者とは職員とホールで話をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会やSkype、電話などでご本人の状況など家族とお話しさせていただき、情報共有をはかり良好な関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の方の訪問、家族の面会など、受け入れを制限していたが徐々に規制は解除しています。ご近所の方とは敷地内の散歩の時など大きな声でご挨拶させて頂いています。	施設周辺への散歩などで近隣の人と会い話す機会がある。訪問してくれる家族、親族との対話、家族と外出をしている方もある。たまには知り合いなどが訪問してくれることもあり面会制限は緩和している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや行事では、それぞれの方ができる事を提案して実施している。利用者同士の交流では職員が仲介したり、声掛けをして間に入り支援している。また、ボランティア(当法人職員)が来所される際には、全員が参加できるように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所して、同法人内の施設に移られても、相談を受けたり、経過を見守っている。また、ご自宅に戻られても関係機関やご家族、ご本人と連絡調整など行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に家族・本人の希望をお聞きして記録表に記入している。また、好きなこと・嫌いなこと、また趣味なども把握して、一人一人の暮らしの中での経験を日々の生活の中に活かすよう取り組んでいる。	入所時に本人家族などから生活歴、意向、好き嫌いについて細かく聞いて記録している。また日頃利用者と話す中で本人の希望を随時聞き取り対応している。時には家族に聞いたりして相談することもある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	作成している。 本人や家族の希望などをお聞きしてプランに反映している。必要な関係機関とも話し合い意見をお聞きしている。また、GH会議などでも検討して、反映している。	合同会議(御姫尊・桃源郷)、又はそれぞれのホームでの会議で検討している。家族、医療関係、担当看護師なども必要に応じて意見を聞いている。退院後、介護保険証の更新時などには重点的に個別カンファレンスを実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌や個人経過記録に記入している。また職員の申し送りノットで情報の共有を図っている。必要があれば介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	業務日誌や個人経過記録に記入している。また職員の申し送りノットで情報の共有を図っている。必要があれば介護計画の見直しを行っている。 ケアプランに基づいてサービス提供を行い、家族に承諾をいただいている。		

グループホーム桃源郷

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援している。 今までは自粛していたが地域とのかかわりを大切にし、小学校の運動会や音楽会への参加など行っていきます。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医は法人内の診療所がっており、随時診てもらえることができる。随時の受診は家族に様態・状況を説明して納得を得られている。急を要する場合には、24時間365日診療所で即受診できる体制としている。他医院の受診も可能である。	基本、法人の医療機関で、訪問診療、訪問看護などを定期または随時行っている。緊急時には診療所の医師が24時間対応している。眼科は外部の医院を家族対応で受診している。家族には受診の様子を報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内の診療所看護師、訪問看護、歯科衛生士と連携を図り常日頃から相談してアドバイスを受け必要に応じて受診できる体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院した際にはサマリ-にて、こちらの情報を提供し情報を共有できるように努めている。そして早期の退院に不安な場合は法人内のいつでも看護師に相談できる看護小規模多機能施設の利用により安心して退院出来るよう体制を整えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に急変した場合や重度化した場合、この法人内の施設で可能な医療・介護などの内容について、十分説明をし、理解を得ている。希望により診療所、訪問看護との連携により終末期の看取りについても可能な体制を整えている。	入所の契約時に重度化した場合の希望を説明書を用いて聞いており承諾を得ている。体調の変化に応じて医師を交えて検討しエンゼルシートに記録している。看取りも可能で宿泊ができる体制になっている。ここ2年ほど医療機関での終末となっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実践力を身につけている。 法人全体での研修会などで訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	スプリンクラー、火災通報装置が設置されており、防災訓練も年2回実施している。昨年から防災訓練には地元「東町区」の消防団員の参加をお願いした。	職員の繋がりがあり、地区消防団とのつながりは濃い。浸水想定に係る避難確保計画は作成済みである。スプリンクラー、火災報知器は設置されている。年2回防災訓練は実施しており、地区の消防団が加わって指導してもらっている。全施設合同で実施している。	職員の少なくなる夜間を想定した訓練も、今後実施されることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけには細心の注意を払っており、また、入浴時や排泄時には露出部分が極力少ないように配慮している。	特に言葉かけには注意を払っており、個人のプライバシー保護、尊厳を持って接していることがわかる。羞恥心に配慮して露出部分を極力なくすよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員で決めるのではなく、できるだけ本人が決定できるように、選択肢がある質問をするなど心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事時間などその人のペースに合わせて過ごしていただくよう支援している。実際に遅い食事時間の方や早い食事時間の方もおられる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族から衣類をお預かりし、週2回の入浴後本人と相談して衣類を選んでいく。2か月に1度美容師が訪問して利用者散髪や髪染めの要望に応えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを把握し、適した食形態を提案している。また、それぞれの能力に応じて役割分担している。お茶くみや食器拭き、簡単な調理などやっていただいている。	食事は主にレトルトの食品を提供しているが、ご飯と汁物は手作りしている。時々魚の煮つけ等手作りの物の提供もある。季節感、行事への配慮もしながら楽しんで食事ができるよう配慮されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。 食事摂取量や水分摂取量については毎回記録している。脱水にならないように気を付けている。献立については法人契約をしている業者に作成してもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っており、就寝の際には義歯の洗浄を行っている。また定期的に祢津診療所歯科及び歯科衛生士の指導を受けている。		

グループホーム桃源郷

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	常に排泄チェック表をつけており、その方にあった排泄方法に努めている。できる限り、トイレで排泄できるように努力している。実際に要介護5の方をリハビリパンツにてトイレを使用し、2人で介助をし排泄を行っている方がおられます。	御姫尊では重度化が進んでいて常時おむつ使用者が3名いる。桃源郷は自立の人が多く、排泄の記録を見ながらトイレ誘導を行っている。リハビリ、パット使用の方については全員トイレで排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる。排便の周期のチェックをし、水分摂取を促したり、運動を進めたり、便秘にならないようにしている。便秘傾向の人には主治医に薬を処方していただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	現在曜日での入浴になっている。入りたくない方は別の時間帯や別の日に入って頂いている。朝一番が良い方は、そのように対処しています	週2回の入浴を基本に介助している。重度化が進み浴槽に入れない方も数名いる。老健の特浴を使用することも可能である。全体の6割ぐらいは浴槽につかることができる。重度化のため二人対応の介助もあり負担にはなっているが、利用者は入浴を喜んでいる。	入浴介助の負担軽減の方法を考えていく必要を感じます。施設の改善、職員の確保など検討されることを望みます。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者それぞれの生活パターンを職員は理解しており、休みたい時などは、自室かホールのソファなどで休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確認に努めている。それぞれの利用者が服用されている薬については、薬情を称津診療所からいただいております。職員は把握している。服薬に関しては職員が管理、内服までの確認を常に行っている。状態変化時は主治医に相談し指示を仰いでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所時やその後のカンファレンスや日々のお話の中で合った役割、趣味嗜好を把握している。その方の能力にあった役割分担をしており、本人の希望に沿って献立を変更したり、戸外活動を行ったり、好きなことをして頂いて気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全体としては自粛している事が多い。地域の歌舞伎見学や小学校や保育園の行事への参加など今後増やしていく。家族との外食、買い物で気分転換を図っていただいている。施設敷地内のお散歩や朝の外気浴を行っている。	外気に触れることができるよう、施設周辺の散歩に努めている。近所の人と挨拶を交わしたり、山羊と触れ合ったり、桜を眺めたり楽しく過ごしている。計画を立てて外出の機会を作り花見などにお誘いしている。家族と外食する方もいるがコロナの影響で自粛が続いていた。	

グループホーム桃源郷

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル防止の観点から金銭所持は、認めていない。家族との話し合いでわずかな金額を預かる場合もあるが、現在は預かっている利用者はいない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居様が家族や知人などに連絡したい時は、施設の電話にて対応している。家族からは絵手紙を頂く事があり楽しみにしている方もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設内であると、季節感に疎くなってしまう傾向があるので、季節を感じる花、月ごとのカレンダーづくりや季節に応じたの行事を行っている。また、毎日ラジオ体操を行い、廊下を歩行訓練の場として行って居心地良く生活できるように工夫している。	食堂兼共有施設で過ごされていることが多い。1日3回ほどの体操を元気にやっている姿が見られる。壁には季節を感じる花や正月、お雛様飾りなどがあり、演出を心がけている。桃源郷は元気な方が多いのでカラオケや、ダンスに興じる和やかな姿も見られた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	今まで生活されてきた背景を考慮して、共有スペースに椅子やソファを配置し利用者同士でおしゃべりを楽しめるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ちいただくようにしており、利用者によってはパソコン、スマホを持参されている。本人の希望には可能な限り添えるようにしている。	桃源郷は比較的元気な人が多いので、部屋も自分の好みに仕上げている人が多い。趣味の手芸品などで、半分倉庫のようにになっている部屋、ベッドと椅子のみのシンプルなものと個性が出ている。御姫尊の方が必要品をシンプルにセッティングしている感じである。いずれも自室で落ち着いて生活ができています。春には居室でサクラを眺めて過ごせる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者各々がこの施設での生活が安易に安心して暮らせるように、廊下には障害になるものは置かないようにして安全性を確保している。また、居室やトイレの場所などが分からない方のために案内板を設置して、一人で行動できるようにしている。		